

No.5 堀金・田尻地区

—— 白井吉見のふるさとを訪ねて ——

「安曇野」の名を全国に広めた小説『安曇野』の作家・白井吉見のふるさとをたどるコースです。常念岳を望む田園風景の中に点在する道祖神が、静かに歴史を語りかけ、本棟造の主屋と屋敷林がみごとに調和した集落が展開しています。万水川との立体交差から大曲へと、先人の文化遺産である拾ヶ堰がゆったりと流れ、安曇野の歴史と文化の魅力にあふれた地域です。



白井吉見の生家



扇町西小路の屋敷林

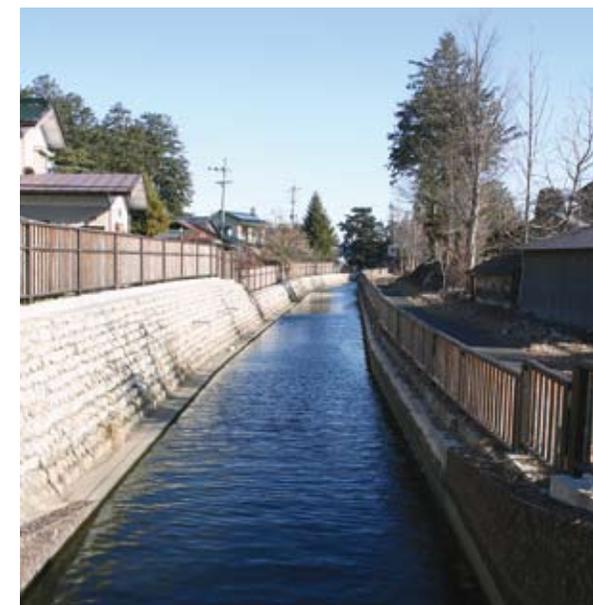


◆コースタイム ※時間は歩速 3km / 毎時としての目安です (休憩含まず)。

スタート 白井吉見文学館→約 0.3km * 10 分→下堀の諏訪神社→約 0.5km * 10 分→扇町西小路の屋敷林→約 0.7km * 15 分→白井家の墓→約 0.8km * 15 分→白井吉見の生家→約 1.2km * 25 分→上堀南原の屋敷林→約 0.9km * 20 分→拾ヶ堰と万水川との立体交差 (万水川起点) →約 1.4km * 25 分
→ゴール 白井吉見文学館 【合計】 約 5.8km * 2 時間



拾ヶ堰と常念岳



拾ヶ堰



上堀南原の屋敷林



ぬかくど

①白井吉見文学館

編集者・評論家・小説家として活躍した堀金出身の白井吉見の文学館です。小説『安曇野』『獅子座』の生原稿をはじめ、数々の文献や愛用の品々、写真などが展示されています。

◆開館時間：9：00～17：00 入館料：大人 300円・小人 150円 月曜定休



②下堀の諏訪神社

広い敷地に建御名方命（諏訪神）・事代主命（出雲神）・菅田別命（八幡神）をまつっています。本殿は岩原出身の宮大工・浅川豊八の子、浅川政吉の作品であるとされ、境内の中央には千度石があります。



③扇町西小路の屋敷林

小路沿いに屋敷林が点在し、旧県天然記念物の「榎屋のコナラ」の切り株も残っています。広大な屋敷林に囲まれたY邸の座敷は堀金の寺の庫裏を移築したもので、玄関には樹齢300年というクロマツが門かぶりとなっています。

☞安曇野豆知識 p.24



Y邸の屋敷林



榎屋のコナラ

④白井家の墓と乳房銀杏

古い千国道沿いにある白井一族の墓地に、白井吉見の墓もあります。ここには幹が乳房のように垂れ下がる「乳房銀杏」や、旧阿弥陀堂の持仏堂があります。



⑤白井吉見の生家

農家の二男として生まれた白井吉見（1905～87）の生家です。田尻集落にある西向きの本棟造の家で、吉見少年は毎日常念岳を望みながら小学校に通ったといひます（非公開）。



⑥上堀南原の屋敷林

A邸の正面の門は明治時代に松本城の旧城門を購入して移築したといい、瓦には藩主戸田家の家紋が見えます（「松本城大手門」として安曇野市有形文化財）。屋敷林は以前に比べて三分の一程度となったようですが、本棟造の主屋と門、屋敷林の調和がみごとです。

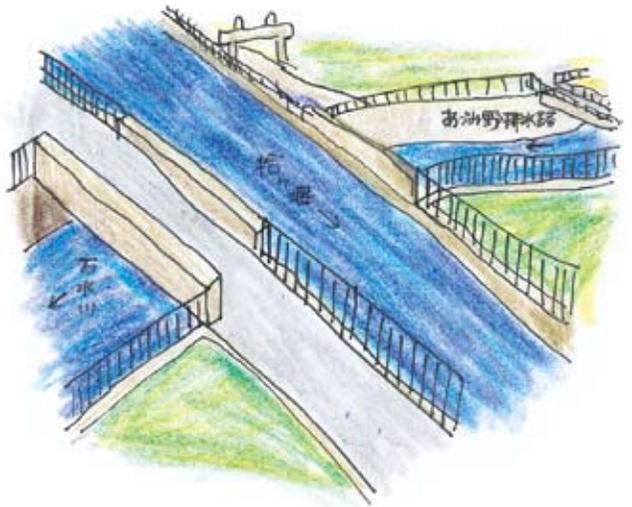
☞安曇野豆知識 p.24



⑦拾ヶ堰と万水川との立体交差

東西に流れる拾ヶ堰の排水路として、ここから北に万水川が始まる場所です。上流に完成したあづみ野排水路を万水川につなげたことで立体交差となり、独特な景観をつくり出しています。

☞安曇野豆知識 p.25



田尻の道祖神



a 道祖神
文字碑 文政10年（1827）
二十三夜供養塔、念仏供養塔、花崗岩の自然石、庚申塔と一緒に基壇に並んでいます。



b 道祖神
酒器像 明治12年（1879）
男神は衣冠束帯、女神は十二単の姿です。

☞安曇野豆知識 p.26